

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	かなゆめキッズま〜る		
○保護者評価実施期間	2026/2/26		2026/3/4
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○従業者評価実施期間	2026/3/9		2026/3/13
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026/5/12		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・日々のミーティングや支援の振り返りなどを行い、学校での様子や子どもの変化について職員で共有し、支援方針の統一につなげている。	・児発管のみで個別支援計画書の作成にならないよう、意識して職員全体でモニタリングを実施している。また、日々の職員の気づきなども拾い、ミーティングで共有するように意識している。	・子どもの支援に活かせるよう、朝のミーティングや個別支援計画書作成のための会議、支援者会議など時間を確保して継続して取り組んでいきたい。 ・子ども自身の意思も尊重できるように、面談も取り入れていきたい。
2	・集団活動を取り入れながら、一人ひとりの特性や発達、興味関心に合わせた支援を行えている。	・療育プログラムを決める際に、利用曜日により参加できる活動が偏らないように工夫して取り決めている。 ・子どもの興味関心にどんなことがあるのか、日々共有している。	・子どもの発達段階の捉え方が職員でバラバラにならないよう、職員間で今一度発達段階を確認してそれに合わせた支援方法を検討していきたい。
3	・季節行事や体験活動を通して、子ども同士の交流や社会経験につながる機会を設けている。	・定期的にこども会議を開催して、子ども達が主体的に活動に参加できるよう意識している。また、イベントを開催するときには子どもたちの役割も決めて主体的に参加し、他児童と協力できるようにしている。	・今後も子どもや保護者のニーズを踏まえながら、主体的に参加できるイベントの内容の充実を図っていく。 また、地域とのつながりや保護者同士の交流機会としての役割も大切にしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用児童の成長に伴い、活動スペースが狭く感じられる場面がある。	・利用児童の成長に伴い、身体的な大きさや活動量が増えている。 ・集団活動や個別活動など、活動内容が多様化している。 ・落ち着いて過ごせるスペースの確保が十分ではない。	・活動内容や年齢層に応じて空間を工夫し、安心して過ごせる環境づくりに努める。
2	・児童の成長に伴うアセスメントの見直しやインフォーマルなアセスメントができていない。	・日々の支援提供や記録業務を優先するなかで、子どもの背景要因を丁寧に観察・共有する機会が不足していた。 ・職員間でアセスメント視点の共通理解や記録方法が統一できていないことが課題である。	・アセスメントする視点を言語化して共通理解した上で、子どもの背景要因を観察できるようにしていきたい。 ・インフォーマルなアセスメントシートを作成していきたい。
3	・地域住民との交流や近隣の事業所との交流をもてていない。	・安全面や子どもの特性への配慮から、交流活動の実施に慎重になりやすい。 ・日々の支援や送迎業務を優先しており、外部との交流を企画・調整する時間が取りにくい。	・まずは地域を知り、繋がりをもてるような活動を取り入れていきたい。 ・近隣の事業所には挨拶を済ませたため、今後交流を持てるようイベント企画をしていきたい。